

学びを支える地域の力！ (学校支援本部「放課後スタディ」・東原中)

東原中の放課後スタディの様子を紹介します。

放課後スタディは、定期考査前に開かれるテストに向けた学習をする場です。中間前は2日間、期末前は3日間の開催で、学校支援本部は校内掲示や案内の作成、出欠確認等の事務全般を担ったり、ボランティアの方を探したりしています。また、ボランティアの方も英語が堪能であったり、数学が得意であったりと生徒の質問に対応できるような人をお願いをしているそうです。

訪問させていただいた日は、学校支援本部員の方2名とボランティアの方1名で見守りをしました。本部員の方にお話を伺うと、「地域には様々な経験、力をもっている人がたくさんいる。できる限り、学校の求めに応じて適した人材を、素早く学校につなげることを心がけている。」ということでした。本部員のお二人は東原の卒業生、ボランティアの方はお子さんが東原の卒業生ということで、卒業生つながりの人脈を生かした人材発掘をされていました。「学校の近くに住んでいることも重要。」とおっしゃっていたように、生徒の学びだけでなく、地域の大人の目として、学校外での見守りも兼ねているのではないのでしょうか。

在校生の中から、未来の東原中の学びを支える豊かな人材が出てくることを期待しています。



掲示物のポイントは「いかに目立つか。」とのことです。



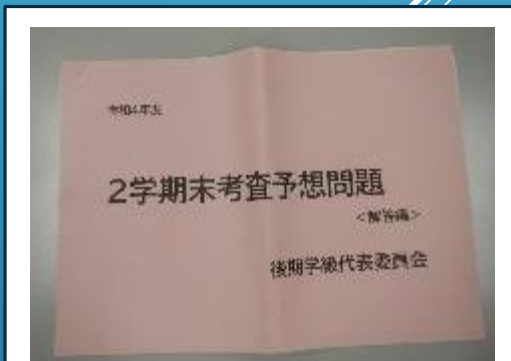
校舎内ですれ違う生徒が「遅くなりました。今から行きます。」と本部員の方に声をかけるなど、関係性も構築されています。



生徒一人ひとりが自分の選んだ教科の学習を進めます。取り組む内容は違いますが、全員集中して学びを進めていました。



問題集に取り組む生徒、タブレットで問題を解く生徒、ノートをまとめる生徒、友達同士で相談し合っている生徒...一人ひとりが自分なりの方法で取り組みます。



学級代表の生徒たちが作成した「予想問題」に取り組む生徒もいました。自分たちで「こうやって学びたい。」という思いを形にしました。